

授業科目	臨床栄養学	担当 教員	氏名	今村 恵美子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	産業医科大学病院
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて管理栄養士として勤務
受講要件	なし			
授業概要	各ライフステージや疾病の予防、健康障害時の適切な栄養素の摂取について学び、健康を保つための「食」と看護の関連について病院での実務経験をもとに講義する。また、治療食に対する理解を深められる授業とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ各期における食事摂取基準の特徴と望ましい食生活を説明できる。 2. 健康と栄養の関連を理解し、疾病予防および疾患ごとの食事栄養療法を理解し病態に応じた栄養補給について説明できる。 3. 栄養アセスメントの方法と判定基準を理解し、栄養・食事指導と関連づけることができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	食品成分と食事摂取基準	講義
	2	2	人生各期における健康生活と栄養	講義
	3	2	療養生活と栄養	講義
	4	2	疾患別の栄養食事療法	講義
	5	2	疾患別の栄養食事療法	講義
	6	3	栄養食事療法のための治療用食品の実際	演習・講義
	7	2	栄養アセスメントと食事指導、看護にいかす栄養管理	講義
授業時間外の学習	テキストの重要用語や学習達成チェックを活用し、授業で学んだことを復習する。 課題提出2回（第1回配布 ⇒ 第2回提出、第5回配布 ⇒ 第6回提出）			
テキスト	關戸 啓子 編集：ナーシンググラフィカ 臨床栄養学，メディカ出版 日本糖尿病学会 編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版，文光堂			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	評価はテスト 80 点、課題提出 20 点、計 100 点で評価する。			

授業科目	診断治療論 4		担当 教員	氏名	①竹田貴雄 他 ②金澤耕介
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①北九州総合病院 ②九州労災病院
対象学生	2023 年度・2 年生				担当者実務経験
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、病期に伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 4 では、麻酔、救急、輸血療法、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	手術療法や急性病態を支える麻酔や救急、代表的な耳鼻科・眼科・皮膚科系疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。また、輸血療法の考え方と方法を説明できる。				
区分	時間	内容		方法	
A. 麻酔	2	麻酔総論 麻酔とは 局所麻酔・全身麻酔		講義	
	2	麻酔各論 麻酔下の管理、麻酔の実際		講義	
B. 救急	4	救急総論 救急医療とは 救急時の対応、救急患者の評価		講義	
	4	主要病態に対する救急処置		講義	
	4	BLS 演習		演習	
C. 精神疾患	2	総論：偏見、脳機能障害と精神障害、精神疾患分類 診断：面接法、精神症状、検査		講義	
	2	治療：薬物療法、心理療法、社会療法		講義	
	2	各論 1：身体因性精神障害 (認知症、せん妄、薬剤性精神障害など)		講義	
	2	各論 2：精神病性障害 (統合失調症など)		講義	
	2	各論 3：気分障害 (うつ病、躁うつ病など)		講義	
	2	各論 4：神経症性障害とストレス関連疾患 (神経症、PTSD、適応障害など)		講義	
	2	各論 5：その他の疾患や社会的トピック (発達障害、自殺、薬物乱用、いじめ、不登校など)		講義	
D. 形成外科	2	小児先天異常：①口唇裂・口蓋裂、② 手足の先天異常 母斑・血管腫・腫瘍 等 熱傷、褥瘡・難治性皮膚潰瘍		講義	
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。				

テキスト	<p>A：矢永勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院 B：山勢博彰 他：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教 監修：ゼロからわかる救急・急変看護，成美堂出版 C：武井麻子 他：系統看護学講座 精神看護学1 精神看護学の基礎，医学書院 D：テキストなし</p>
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	区分 B.救急において、救急救命処置技術の 48.一次救命処置(BLS)についてチェック表を用い、自己評価、他者評価（学生及び講師）を行う。
成績評価の方法と基準	<p>各区分別に試験（100点）を行う。（但し、D.形成外科を除く） 最終評価の割合は、Aは15%、Bは35%、Cは50%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。</p>

授業科目	診断治療論 5	担当 教員	氏名	①藤本 英典 他 ②大森 俊 ③成瀬 翔 ④石 明寛
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	①北九州総合病院 ②小倉第一病院
対象学生	2023 年度・2 年生			③西日本産業衛生会 ④無
受講要件	なし		担当者実務経験	病院等にて医師として勤務
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、ライフサイクルに伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 5 では、産科、婦人科、精神科について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。			
到達目標	代表的な産科・婦人科・精神疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。			
区分	時間	内容		方法
A. 産科疾患	2	妊娠の異常 ハイリスク妊娠		講義
	2	妊娠の異常 妊娠期の感染症、妊娠疾患、多胎妊娠、 妊娠持続期間の異常、異所妊娠（子宮外妊娠）		講義
	2	分娩の異常 産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷		講義
	2	分娩の異常と看護 分娩 3 期および分娩直後の異常、分娩時異常出血 産科処置と産科手術新生児		講義
	2	新生児の異常と看護 新生児仮死、分娩外傷		講義
	2	産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害		講義
B. 婦人科疾患	3	婦人科疾患の症状とその病態生理 婦人科疾患の検査と治療・処置		講義
	3	婦人科疾患 ①生殖機能障害：月経異常、更年期障害 ②女性生殖器疾患：子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍 ③感染症：STD		講義
C. 皮膚疾患	2	皮膚疾患の症状とその病態生理 皮膚疾患の検査と治療・処置		講義
	2	皮膚疾患 湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎 褥瘡、腫瘍		講義
D. 眼科疾患	2	眼科疾患の症状とその病態生理 眼科疾患の検査と治療・処置		講義
	2	眼科疾患 白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症、感染症		講義
E. 耳鼻科疾患	2	耳の疾患		講義
	2	鼻・口腔・咽頭喉頭の疾患		講義

授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。
テキスト	A：森恵美 他：系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論，医学書院 B：末岡浩 他：系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器，医学書院 C：渡辺晋一 他：系統看護学講座 成人看護学12 皮膚，医学書院 D：大鹿哲郎 他：系統看護学講座 成人看護学13 眼，医学書院 E：小松浩子 他：系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉，医学書院
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは40%、B・C・D・Eは各15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	診断治療論 6		担当 教員	氏名	石井雅宏 他
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	北九州総合病院
対象学生	2023 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、ライフサイクルに伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 6 では、小児疾患、形成外科的治療について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な小児疾患、形成外科的治療について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
小児疾患	2	総論			講義
	2	先天異常・新生児の疾患			講義
	2	吸器疾患・循環器疾患			講義
	2	内分泌・代謝疾患 腎泌尿器疾患			講義
	2	感染症 消化器疾患			講義
	2	血液疾患 腫瘍			講義
	2	神経疾患 免疫・アレルギー疾患			講義
	1	まとめ			講義
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。				
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論，医学書院				
参考文献	各講師の配布資料				
「看護師教育 の技術項目」 の 到達確認方法	該当なし				
成績評価の 方法と基準	A.小児疾患の試験（100 点）を行う。				

授業科目	看護における病態理解	担当 教員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1単位・15時間		所属	教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習（解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等）の知識をもとに、疾病とそれが及ぼす症候やメカニズム、検査、治療との関連、さらに、患者に及ぼす影響についての考え方を理解できるよう教授する。このことにより、看護実践の基盤となる対象の健康の状態および障害に関する観察力と判断力を高め、さまざまな状況にある人々の健康課題に対する看護実践の根拠が理解できるよう病院での実務経験を活かして講義を行う。			
到達目標	解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等の知識をもとに、疾病とそれが及ぼす症候やメカニズム、検査、治療との関連、患者に及ぼす影響についての考え方を理解する。			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	2	ガイダンス 疾患や症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ、検査や治療等との関連、予測 ①COPD・呼吸不全 呼吸困難（呼吸のしくみ、酸塩基平衡）		講義 演習
2	2	疾患や症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ、検査や治療等との関連、予測 ①COPD・呼吸不全 呼吸機能検査、全身への影響、治療とセルフマネジメントの必要性		講義 演習
3	1	①COPD・呼吸不全 まとめ、小テスト ②③④のガイダンス		講義 演習
4	2	主な疾患やその症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全		協同学習 ジグソー法
5	2	主な疾患やその症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全		協同学習 ジグソー法
6	2	中間発表 ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全		演習
7	2	主な疾患やその症状・検査・治療が患者に及ぼす影響 ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全		協同学習 ジグソー法
8	2	②③④の発表・まとめ、小テスト		演習
授業時間外の 学習	学習課題（ワークシート）について予習復習を行い講義に臨む。 学習報告書の作成			
テキスト	解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等のテキスト			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	評価は、テスト 70 点、課題（ワークシート・学習報告書）30 点で行う。			

授業科目	公衆衛生学	担当 教員	氏名	小田原 三津人
単位・時間数	1単位・30時間		所属	福岡県赤十字血液センター 北九州事業所
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	保健所にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	保健統計データや保健所における食品衛生や感染症等の実務経験をもとにした具体的な事例を検討しながら、集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を考えるという公衆衛生学的な考え方の理解を目指す。また、プライマリヘルスケアの考え方による衛生行政組織、保健・医療・福祉のネットワーク等についての理解を目指す。さらに、顕在化している地球温暖化問題などから環境保健問題への理解を図る。ヘルスプロモーションの考え方や地域における組織的な保健活動の実際やこれからの超高齢社会における地域包括ケアシステムについての理解を目指す。また、看護師業務を踏まえながら産業保健活動についての理解を図る。			
到達目標	公衆衛生行政の活動を理解することで、医療を支える地域社会の背景を理解し、看護師としての視野を広め、看護活動に活かせるようにする。集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を考えるという公衆衛生学的な考え方を身に付ける。健康・疾病と社会・環境との関わりから、社会の中で疾病と健康を扱うための理論と実践を習得する。ライフステージに応じた実践活動としての保健サービスから、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を習得する。			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	3	公衆衛生とは：公衆衛生の概念、健康とは、公衆衛生の歴史 地域保健活動：地域保健法の理念と方針、医療サービスの提供 体制、保健・医療従事者、救急医療・災害医療 ヘルスサービスの方向（国際保健）		講義
2	3	健康の指標：人口問題（国勢調査）、 人口動態統計（合計特殊出生率・年齢調整死亡率・生命表）、 健康状態と受療状況（国民生活基礎調査、患者調査）		講義
3	3	健康と環境、疫学的方法：集団の健康被害の理解、集団検診、 疫学的因果関係（相対危険度・寄与危険度）、 臨床疫学とエビデンス 健康教育とヘルスプロモーション		講義
4	3	健康と環境：健康の多要因 生活環境の保全：地域環境、生活環境の安全、 公害健康被害補償制度、ごみ・廃棄物の処理 食品保健と栄養：食品の安全、食品衛生管理		講義
5	3	感染症とその予防：感染症の動向と感染症法の制定、 感染症予防の基本その他の感染症予防対策、 主要な感染症（健康危機管理）		講義
6	3	母子保健：歴史的経過、統計からみた母子保健の現状、 母子保健サービスの現状、これからの母子保健 学校保健：学校保健制度の歩み、 学校保健を支える関係法令と関係団体、 学校における保健管理業務、学校安全、学校給食		講義
7	3	生活習慣病対策：生活習慣病の概念と現状、 中・高年者に多い疾患の予防、老年保健の歩み		講義

8	3	生活習慣病対策：健康日本 21 と健康増進法、主な生活習慣と健康 医療制度：高齢者医療制度、介護保険、国民医療費	講義
9	3	精神保健福祉：法制度の変遷、近年の精神保健福祉行政、 精神障害者のリハビリテーション、人間発達と精神保健、 精神保健の新たな課題 難病対策 (障害者に関する対策・歯科保健対策、その他の疾病対策) (医務・薬事対策)	講義
10	3	産業保健：労働衛生管理のしくみ、 職業性疾病とその予防、作業関連 疾患、労働者の健康を増進し、働きやすくする施策 これからの公衆衛生	講義
授業時間外の 学習		予習として教科書の該当部分に目を通すこと。復習は講義のあと早めに行うこと。 特にポイントを整理しておくこと。	
テキスト		清水忠彦：わかりやすい公衆衛生学 ヌーヴェルヒロカワ 国民衛生の動向 2022/2023, 厚生統計協会	
参考文献		なし	
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		試験は中間と終了時（国家試験と同じ形式、各 100 点）に 2 回行う。中間試験・終了試験の平均点を最終評価とし、60 点以上を合格とする。	

授業科目	社会保障制度		担当 教員	氏名	戸丸 純一
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	とまるソーシャルステーション
対象学生	2023 年度・2 年生			担当者実務経験	ソーシャルステーションにて 社会福祉士として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>社会保障・社会福祉に関する概要を説明し、具体的な社会保障や社会福祉の制度について教授します。また、人々が遭遇するであろう生活上の困難や危機に対応するために必要な社会保障制度を実際の経験をふまえて講義し、看護師をはじめとする多職種との連携についても教授します。</p>				
到達目標	<p>1. 社会保障・社会福祉の概要を理解する。 2. 社会保障や社会福祉制度の現状を理解する。</p>				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	4	講義の進め方、社会保障・社会福祉とは、社会保障の歴史		講義
	2	4	医療保障制度、(沿革、医療保険制度の種類、高額療養費制度など)		講義
	3	4	介護保障 (高齢者医療と介護保険)		講義
	4	4	所得保障 (年金・労災など)		講義
	5	4	所得保障 (公的扶助制度など)		講義
	6	4	社会福祉の歴史と各分野とサービス (各福祉制度など)		講義
	7	4	連携について		講義
	8	2	援助技術、振り返り		講義・演習
授業時間外の学習	毎時間の復習を必ず行っておいください。				
テキスト	福田素生 他：社会保障・社会福祉，医学書院				
参考文献	日本医療ソーシャルワーク研究会 編集：医療福祉総合ガイドブック，医学書院				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、授業中の積極的な発言や質問、演習でのコミュニケーション力、理解度 (20%) で評価する。				

授業科目	社会保障制度演習	担当 教員	氏名	佐藤 節美
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	人はそれぞれの目標や幸福を目指し、生活を営んでいる。その生活は健康や環境と相互に影響を及ぼしている。本講義では、社会保障制度の講義をもとに、生活を取り巻く社会環境の一つである社会資源を活用するための基礎的な考え方を学ぶことを目的に学習を進める。学生も社会で生活する一人として社会保障制度に関心を持ち、生活上の課題に対して社会資源を活用するために、その法的根拠を学習し、社会資源がどのように活用されているか現地活動を通して学習できるよう支援する。また、この学習を通して、人々の生活と社会保障制度の関係を理解し、社会保障制度の課題、社会保障制度と看護の関連について考えられるよう演習を進める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の生活と社会保障制度の関係が理解できる 2. 社会保障制度の現状と課題が理解できる 3. 社会保障制度と看護との関わり、看護の役割が理解できる 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	オリエンテーション 人々の生活および社会保障制度に対する問題意識の明確化	講義 演習
	2	2	グループワーク 調べたい社会資源について法的な側面を調べる。	演習 (GW)
	3	2	グループワーク 調べたい社会資源が近隣にどのような形で存在するか調べる。	演習 (GW)
	4	2	グループワーク 施設見学に向けて調べたい内容を抽出する。法的根拠の確認。	演習 (GW)
	5	2	グループワーク 施設との調整、依頼文書作成。現地活動計画の立案。	演習 (GW)
	6	2	グループワーク 活動のまとめ	演習 (GW)
	7	3	学習活動の発表会	演習
授業時間外の学習	夏季休暇中に現地活動を行う。また、現地活動終了後はまとめ及び発表ができるよう各自学習内容を整理しておく。			
テキスト	福田素生 他：社会保障・社会福祉，医学書院			
参考文献	地方自治体および関連団体発行の福祉サービス冊子等をテーマに応じて各自で準備する			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	発表と発表会資料（40%）、個人レポート（60%）で評価する。 欠席やレポート等の提出が遅れた場合は、減点対象とする。			

授業科目	関係法規		担当教員	氏名	小田原 三津人
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	福岡県赤十字血液センター 北九州事業所
対象学生	2023 年度・2 年生			担当者実務経験	保健所にて医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護師として患者を守ることができるように、保健所が行う病院に対する立入検査や医療事故に関わる判例、実務経験等を通して、必要な保健・医療・福祉制度の理解を目指す。同時に看護師として職務を遂行し、自分を守ることができるように、労働衛生法規等関係法規の理解を目指す。また、地域包括ケアシステムなど保健・医療・福祉の連携の必要性の理解を図る。				
到達目標	安全で良質な医療・看護の提供ができるように、患者の権利やインフォームド・コンセント等について習得する。看護師として職務を遂行し、自分を守るために必要な関係法規を習得する。保健・医療・福祉の連携の重要性を習得する。				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	3	なぜ、法規について学ぶのか 法律の概要 (関連法規：民法・刑法、患者の権利) 医療法規：保健師助産師看護師法		講義
	2	3	医療法規：医師法等（医行為・医業類似行為・診療契約・医療事故） 医療法①		講義
	3	3	医療法規：医療法②（医療計画・救急医療） 臓器移植法、母体保護法、献体法等 薬事法規：薬事法（薬害）、麻薬及び向精神薬取締法、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律		講義
	4	3	福祉関係法規：医療保険、介護保険法、社会福祉法制度（社会福祉法、児童福祉法、身体障害者福祉法、障害者自立支援法等）		講義
	5	3	保健衛生法規：地域保健法、母子保健法、感染症法等 生活衛生法規：食品衛生法、廃棄物処理法、環境基本法等 労働関連法規：労働基準法、労働安全衛生法等		講義
授業時間外の学習	予習として教科書の該当部分に目を通すこと。復習は講義のあと早めに行うこと。特にポイントを整理しておくこと。				
テキスト	平林勝政 他 編集，ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度，メディカ出版 国民衛生の動向 2022/2023，厚生統計協会				
参考文献	勝又浜子 他 編集：看護法令要覧 令和 5 年版，日本看護協会出版会				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				
成績評価の方法と基準	終了時試験（国家試験と同じ形式、100 点）で評価する。				

授業科目	医療倫理学	担当 教員	氏名	大林 雅之
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	非常勤講師
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	現代の医療に求められている「患者中心の医療」に対応できる医療従事者となるために必要な医療倫理に関する知識と技術について教授する。特に、人間の尊厳を尊重し、患者の権利を具体的に理解し、医療の現場において実践するための基礎的態度を獲得することをめざす。			
到達目標	医療倫理と生命倫理の歴史的展開を理解し、説明することができる。 生命倫理の成立の背景を理解し、患者中心の医療のあり方を説明できる。 患者の権利を具体的に述べ、そのインフォームド・コンセントや倫理委員会における意義について説明することができる。			
授業計画		内容		方法
回	時間			
1	4	オリエンテーション(看護教育において医療倫理を学ぶ意義) 医療倫理の歴史と生命倫理の成立(インフォームド・コンセント、倫理委員会の制度化) 医療における「倫理」の意味 医療における倫理的判断決定		講義・討論 講義・事例演習
2	4	生命科学・医学研究の発展と倫理 研究倫理の法制度(法律・ガイドラインの検討) 生命の始まりと倫理問題 生殖補助技術・出生前診断をめぐる倫理問題		講義 事例演習
3	4	人間の健康と福祉をめぐる倫理問題 医療・福祉・介護に関する保険制度に関連する倫理問題 生命の終わりと倫理問題		講義 講義・事例演習
4	3	脳死と臓器移植 エンド・オブ・ライフ・ケア 日本における医療倫理の課題		講義 講義・事例演習
授業時間外の学習	各回の授業内容に該当する教科書の章を事業前に読み、要点をまとめておく。 各回の授業後に、授業中に出された課題に基づき復習をする。			
テキスト	大林雅之：生命の問い，東信堂			
参考文献	大林雅之：小さな死生学入門，東信堂，2018 年			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	試験(試験期間中に行う)50%、授業中の提出物 30%、演習での参加態度 10%、発表 10%で総合的に評価する。			

授業科目	看護研究	担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護研究は、よりよい看護実践のための研究成果の活用や自己の看護の専門性の追求のために看護師にとって不可欠である。本講義は、看護研究の基礎知識を講義した後、研究論文に触れ、論文をクリティカルに読むこと、自己の看護実践を研究的な視点をもって検討すること、看護に関する問題意識を研究課題に変換し研究計画立案を行うことを課題としている。担当教員の研究実績も紹介しつつ、看護研究の意義と方法を理解し、多角的・論理的な思考を身につけることをめざす。また、3年生の看護観発表会に参加し、発表者の姿勢や発表方法について学ぶ機会を持つ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究論文がクリティークでき、看護実践における研究活動の意義が理解できる。 2. 自己の看護実践を振り返り、看護について検討しケースレポートにまとめることができる。 3. 自己の問題意識を研究課題として取り上げ、研究計画の概略を立案できる。 4. 看護研究の意義と研究方法が理解できる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	ガイダンス 看護研究とは 看護研究の意義 看護研究の手順	講義	
2	2	研究計画書の作成 研究方法の種類と方法	講義	
3	2	研究論文のクリティーク	演習	
4	2	研究論文のクリティーク	演習 (GW)	
5	2	研究論文のクリティーク発表会：多様な研究方法の理解	演習	
6	2	ケースレポート：計画	演習	
7	2	ケースレポート：文献検索	演習	
8	2	ケースレポート：レポート作成	演習	
9	2	ケースレポートの査読（発表者の選出） 研究テーマの選定・明確化、文献検索	演習 (GW)	
10	2	ケースレポート発表会	演習	
11	2	研究計画の作成：文献検索、研究方法の検討	演習 (GW)	
12	2	研究計画の作成：研究方法の検討、研究計画書作成	演習 (GW)	
13	2	研究計画の作成方法（発表会）	演習	
14	2	研究計画の講評・まとめ	講義	
15	2	3年生看護観発表会の聴講	演習	
授業時間外の 学習	授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 論文のクリティーク、ケースレポート等、授業時間の時間を使用して、計画的に取り組んでほしい。			

テキスト	坂下玲子 他：系統看護学講座 看護研究，医学書院
参考文献	黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step，医学書院 南裕子 他：看護における研究，日本看護協会出版会
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）30点、論文のクリティーク 20点、ケースレポート 30点、研究計画書 20点、計 100点で評価する。 なお、ケースレポート評価が6割（18点）に満たない者は再レポートを課す。

授業科目	地域・在宅看護論概論		担当 教員	氏名	①福田敦子 ②藤井直美
単位・時間数	1単位・30時間			所属	①専任教員 ②湯川訪問看護ステーション
対象学生	2023年度・2年生				担当者実務経験
受講要件	なし				
授業概要	地域・在宅看護の歴史や必要とされる社会的な背景を踏まえ、地域・在宅看護の概念と対象・活動の場や連携について講義のみでなく演習を通じて学生の理解が深まるような学習内容とする。				
到達目標	1.地域・在宅看護の対象について理解することができる。 2.地域・在宅看護の歴史や基盤となる概念について理解することができる。 3.地域における健康と暮らしを支える看護について理解することができる。 4.地域・在宅看護実践の場と連携について理解することができる。 5.地域・在宅看護に関わる制度とその活用について理解することができる。				
授業計画		内容	方法		
回	時間				
1	2	授業オリエンテーション、地域・在宅看護を学ぶ目的	講義		
2	2	地域・在宅看護の基盤となる概念、歴史	講義		
3	2	地域・在宅看護論の対象	講義		
4	2	地域包括ケアシステムについて	講義		
5	2	看護が提供される多様な場の理解と連携	講義		
6	2	地域・在宅看護を支える法・制度・社会資源	講義		
7	2	介護保険について	講義		
8	2	介護保険について	演習		
9	2	訪問看護制度について	講義		
10	2	地域・在宅看護における家族看護	講義		
11	2	多職種連携・協働の意義と方法	講義		
12	2	多職種連携・協働の意義と方法	演習		
13	2	権利保障に関する法と施策	講義		
14	2	在宅ケアの概要と実際	講義		
15	2	多職種との連携の実際	講義		
授業時間外の学習	講義に関する予習や復習を行う				
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論1， 医学書院				
参考文献	必用に応じて講義内で紹介する。				

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）100点で評価する。

授業科目	地域・在宅看護論援助技術	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	地域・在宅で暮らす人々に必要な看護の基本について講義内容をもとに視聴覚教材を用いて理解を深める教授を行う。在宅看護では療養者・家族の多様な価値観や思いを尊重しながら生活をサポートすることを実感できるようグループ間の意見交換の機会を取り入れ学習をサポートしていく。また、担当者の訪問看護ステーションでの実務経験をもとに、学生が臨床場面をイメージしやすい講義・演習とする			
到達目標	1.地域・在宅看護に必要な基本技術について理解することができる。 2.地域・在宅看護の介入時期に応じた看護と継続性について理解できる。			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	2	オリエンテーション、地域・在宅看護に必要な技術の特徴		講義
2	2	地域・在宅での健康の保持増進・疾病予防に関する看護		講義
3	2	治療の場から在宅への移行期への看護		講義
4	2	地域・在宅看護を行う上での環境のアセスメント		講義
5	2	地域・在宅看護を行う上での環境のアセスメント		演習
6	2	地域・在宅看護における家族の特徴		講義
7	2	在宅療養における医療機器管理と看護（HOT・人工呼吸器）		講義
8	2	在宅療養における栄養や排泄に関する管理と看護 （消化器・尿路：ストーマ・腹膜透析・膀胱留置カテーテル管理、 経管栄養・中心静脈栄養）		講義
9	2			
10	2	在宅療養における褥瘡管理と看護		講義
11	2	地域・在宅看護における安全について （感染予防・医療事故予防・災害時の対応）		講義
12	2	在宅療養における終末期の管理と看護		講義
13	2	在宅における看護用具の工夫		演習
14	2	在宅における看護用具の工夫		発表
15	2	地域・在宅看護における継続看護の意義		講義
業時間外の 学習	講義に対する予習や復習を行う			

テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2， 医学書院
参考文献	随時配布資料で紹介する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）90点、グループワークの参加度10点、計100点で評価する。

授業科目	地域・在宅看護論 [対象に応じた看護]	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	地域・在宅看護の対象は乳幼児から高齢者までのすべての世代やあらゆる健康状態の人々がその対象となる。そのため、学生に既習学習内容の各領域の知識に基づき地域・在宅で暮らす対象者の特徴を踏まえた看護を主に演習を通して理解が深められるよう教授する。			
到達目標	1. 地域で暮らす、在宅で療養する対象の状況に応じた生活を送るために必要な社会保障について理解できる。 2. さまざまな状態にある対象がその人らしい暮らしや、QOL を維持・向上するための社会資源の活用と看護について考えることができる。			
授業計画		内容		方法
回	時間			
1	2	<p>オリエンテーション</p> <p>1. 障害を持ちながら生活する人の在宅看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患がある在宅療養者への看護 ・移行支援・自立支援と QOL の維持向上 ・社会資源の活用・社会復帰 <p>2. 活動低下及び疾病再発予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能障害の日常生活への影響・自立支援と QOL の維持・向上 ・疾病の悪化防止 ・生活環境のアセスメント ・社会資源の活用と調整 <p>3. 医療的ケアが必要な子どもと家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養を開始する重症心身障害児 ・健康管理と成長発達を促す継続的な支援 ・権利擁護・QOL の維持・向上 ・障害児支援（特別支援教育） <p>4. 人生の終末を迎える人の在宅看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院支援・退院調整・退院時訪問 意思決定支援 ・意思決定支援 ・急性増悪の早期発見・対応 		講義
3	2	事例提示・演習のオリエンテーション		講義 グループワーク
4	2	事例検討		グループワーク
5	2			
6	2	事例発表会		演習
7	2			
8	2	まとめ		講義
授業時間外の学習		各領域での既習学習内容の復習		
テキスト		河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2, 医学書院		

参考文献	必要に応じて講義内で紹介する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	グループワーク（参加度・成果物等）20点、発表会（参加度・態度等）20点、個人レポート（内容、提出期限等）60点（別紙評価表を用いる）、計100点で評価する。

授業科目	成人看護学症状別看護	担当 教 員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	人は健康に問題が起こると、そのことを本人に知らせる機能を持っているが、時には本人も自覚のないものもある。これらの症状は体から発せられる異常のサインとして、人々が生きていくためには重要な意味を持ち、対象者の生活に悪影響を及ぼすこともある。また、これらの症状は複数の疾患につながる要素でもある。ここでは、病態から派生する症状の発生機序を理解し、症状の観察とそれらが示す病理的状态のアセスメントについて学ぶ。また、症状の緩和や不快を取り除くための看護について学習する。教授にあたっては、病院での勤務経験を活かして教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状が起こる原因や発生機序が理解できる。 2. 症状が起こるメカニズムから必要な観察項目を抽出できる。 3. 関連する症状から起こりうる疾患や病理的状态を抽出することができる。 4. 対象者の症状とそのアセスメントに基づき、必要な看護を判断、理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	1. ガイダンス 2. 意識障害とその看護	講義
	2	2	1. ショックとその看護	講義
	3	2	1. 各班で課題作成 症状のメカニズム、病態、観察項目、アセスメントの視点、特徴的な看護について資料作成を行う。	演習
	4	2	・呼吸困難 ・胸痛 ・不整脈 ・浮腫 ・口渇/脱水 ・腹痛/嘔吐 ・吐下血 ・下痢/便秘 ・食欲不振 ・貧血 ・痙攣 ・頭痛 ・めまい ・発疹/搔痒感 ・言語障害 ・視覚/聴覚障害	
	5	2	1. 課題発表 作成した内容を元に上記の視点で説明する。	
	6	2		演習
	7	2	1. 症状と看護（振り返り）	演習(個人、グループワーク)
	8	1	1. 症状と看護（まとめ）	講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書や資料の準備をした上で授業に臨むこと。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で言い指定された期限日までに提出する。 ・3回目以降のグループ編成及び内容については別途指示する。 			
テキスト	<p>香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 山勢博彰：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経，医学書院</p>			

参考文献	必要時は授業中に提示する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	①課題、演習：50点、②筆記試験50点（45分）計100点で評価する。 ①課題の評価に関しては別途評価表を用いて評価する。 授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。

授業科目	成人看護学機能障害別看護 1	担 当 教 員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人期にある対象は、年齢や生活背景により様々な疾患を引き起こし、その症状や変化は急激に起こることがある。そのため、原因検索に時間を要すると生命の危険が生じる可能性があり、原因検索に必要な検査等に伴う看護とともに症状の安定を図る看護が必要となる。ここでは器官系統別に疾患と関係づけながら疾患の成り立ちから検査治療、看護までを考える方策を学習する。症状別看護の既習学習を使用しながら、疾患が対象者の生活にどのような影響を及ぼすか考えながら学習できるよう、臨床経験を活かしながら教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要臓器の働きを理解し、機能の障害もしくは消失時の身体的変化が理解できる。 2. 1 を基に発生する症状から現在の身体状況をアセスメントできる。 3. 2 を基に機能障害時の観察項目とフィジカルイグザミネーションの選択ができる。 4. 疾患の検査・治療の内容及び対象者に及ぼす影響について理解できる。 5. 疾患の検査・治療の結果から、成人期の生活背景を考え、必要な看護が判断できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	1	ガイダンス	講義
	2	2	呼吸器疾患：肺炎（炎症性疾患）	講義
	3	2	呼吸器疾患：ARDS	講義
	4	2	循環器疾患：血管系疾患	講義
	5	2	循環器疾患：心臓（冠動脈、不整脈）	講義
	6	2	消化管疾患：潰瘍性疾患	講義
	7	2	消化管疾患：上部消化管がん	講義
	8	2	まとめ	講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・事前学習は授業前までに作成する。 			
テキスト	奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院 香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア			

参考文献	必要に応じて授業中に提示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）100点で評価する。

授業科目	成人看護学機能障害別看護 2	担当 教 員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人看護学機能別看護 1 と同様に、症状別看護などの既習学習を使用し、各機能障害の事例の発生機序、原因のメカニズム、検査・治療を含めた症状についてその観察内容を理解した上で、必要な看護を抽出できることを目指す。この科目では、グループワークを中心として、学生が機能障害別看護の考え方が習得できるように授業を進める。また、機能障害や検査・治療が対象の生活にどのような影響を与えるかを考えることができるよう臨床経験を活かし教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要臓器の働きを理解し、機能の障害もしくは消失時の身体的変化が理解できる。 2. 1 を基に発生する症状から現在の身体状況をアセスメントできる。 3. 2 を基に機能障害時の観察項目とフィジカルイグザミネーションの選択ができる。 4. 疾患の検査・治療の内容及び対象者に及ぼす影響について理解できる。 5. 疾患の検査・治療の結果から、成人期の生活背景を考え、必要な看護が判断できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス	講義
	2	2	事例の資料作成 各事例の発生機序、原因、症状・観察、治療・検査、看護について資料を作成する。 代謝・内分泌系 脳神経系 運動器系 自己免疫系 感覚器系 各種外傷・熱傷	演習
	3	2		
	4	2		
	5	2		
	6	2		
	7	2	事例発表①	演習
	8	2	事例発表②	演習
	9	2	事例発表③	演習
	10	2	事例発表④	演習
	11	2	事例の再検討 事例発表で不足していることや疑問点を再度調べる。	演習
	12	2	事例発表①	演習
	13	2	事例発表②	演習
	14	2	事例発表③	演習
	15	2	事例発表④	演習

15	2	まとめ	講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 ・2回目以降のグループ編成及び内容については別途指示する。 		テキスト
	<p>奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院 香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 山勢博彰：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦脳・神経，医学書院 吉岡成人：系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝，医学書院 今井亜矢子：系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 田中栄：系統看護学講座 成人看護学⑩運動器，医学書院 岩田健太郎：系統看護学講座 成人看護学⑪アレルギー 膠原病 感染症，医学書院 渡辺晋一：系統看護学講座 成人看護学⑫皮膚，医学書院 大鹿哲郎：系統看護学講座 成人看護学⑬眼，医学書院 小松浩子：系統看護学講座 成人看護学⑭耳鼻咽喉，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア</p>		「看護師教育の技術項目」の到達確認方法
参考文献	必要に応じて授業中に提示する		成績評価の方法と基準
	<p>①課題及び演習への参加度 60 点、②筆記試験 40 点（45 分）、計 100 点で評価する。 ①は別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。</p>		

授業科目	成人看護学経過別看護	担当 教 員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人期にある対象は、その身体的、精神的、社会的特徴から成人期に特有な、また共通してみられる健康状態や健康問題がある。それらは流動的かつ継続的であるため、長期的に疾患を捉え、疾患の連鎖を予防する事が必要となる。この科目では、各健康レベルにおいて特徴的な経過をたどる疾患（事例）をもとに看護理論や症状別看護、機能障害別看護での既習学習をもとに健康レベルに応じた看護を理解することを目指す。各健康レベルの看護については、担当者の急性期病院での経験を活かして教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康レベル（急性期、慢性期、回復・維持期）における発達段階が与える影響と身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 健康レベルに伴う疾患の病態生理、症状、観察が理解できる。 健康レベルに応じた看護実践に必要な看護理論の活用方法が理解できる。 1～3の内容を踏まえ、対象者の状態、状況に応じた看護援助の選択ができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス	講義
	2	2	事例に展開に必要な資料作成	個人ワーク
	3	2	事例検討資料作成 1 事例を急性期から慢性期までの経過を通して、疾患が身体的、精神的、社会的側面の変化と及ぼす影響について考える。 ・喘息 ・心筋梗塞 ・大腸がん ・腎不全 ・クモ膜下出血 ・白血病	グループワーク
	4	2		
	5	2		
	6	2		
	7	2		
	8	2	発表準備	グループワーク
	9	2	事例発表 1) 喘息の疾患、治療と看護 2) 心筋梗塞の疾患、治療と看護 3) 大腸がんの疾患、治療と看護 4) 腎不全の疾患、治療と看護 5) クモ膜下出血（脳動脈瘤破裂）の疾患、治療と看護 6) 白血病の疾患、治療と看護	演習
	10	2		
	11	2		
	12	2		
	13	2		
	14	2		
	15	2	各健康レベルと看護	講義

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 ・グループ編成及び内容については別途指示する。
テキスト	<p>香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 飯野京子：系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経，医学書院 今井亜矢子：系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア</p>
参考文献	必要に応じて授業中に提示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	<p>①課題及び演習への参加度 60 点、②筆記試験 40 点（45 分）、計 100 点で評価する。</p> <p>①は別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。</p>

授業科目	成人看護学技術	担当 教 員	氏名	東本七重
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>医療の進歩に伴い、多くの医療機器が使用されるようになり、これらの管理や取り扱いには患者の状態を管理するうえで重要なものとなっている。さらに、成人期の対象に提供される診療技術は、生命の危機に直結することも多く、看護師には、診療の場面においてその役割、責任を認識し、正確かつ確実な技術を提供すること、治療過程や身体状況を理解することが求められる。この科目では、治療を円滑に行うために、また症状安定や緊急時に必要な援助技術を選択・実践できるようになることを目指す。</p> <p>また、生活の再構築を行うためには、対象者が自身の生活を見直し、必要な内容を対象の生活に即して創造する力が必要となる。成人学習者として対象の能力を引き出せるように既習の基本的アプローチ方法を駆使して、対象者の生活構築を支援する指導法について理解できるよう、実務経験を活かし教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の対象者に必要な看護技術の基本知識が理解できる。 2. 必要な検査・処置の安全・安楽な実施ができる。 3. 必要な検査・処置を通して、状態安定のための観察ができる。 4. 症状安定のために必要な技術の選択基準が理解できる。 5. 対象者の生活状況を踏まえた指導の視点が理解できる。 6. セルフマネジメントの必要性と継続支援のための看護が理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	1. ガイダンス 2. 症状安定のための援助技術：必要な知識 1) 循環器 2) 呼吸器	講義
	2	2	1. 症状安定のための援助技術① 1) 吸引 2) 体位ドレナージ 3) スクウィーピング	講義
	3	2	1. 症状安定のための援助技術② 1) 心電図 2) 輸液ポンプ/シリンジポンプ	演習
	4	2	1. 症状安定のための援助技術③ 1) 人工呼吸器	演習
	5	2	1. 症状安定のための援助技術：必要な知識 1) 糖代謝管理 2) 外傷管理	講義
	6	2	1. 症状安定のための援助技術① 1) 血糖測定 2) 外傷管理	演習
	7	2	1. 症状安定のための援助技術① 1) 糖代謝管理：血糖測定 2) 外傷管理：創傷処置 止血法 胸腔ドレナージ	演習
	8	2	1. 緊急時の対応（事例構築）	演習
	9	2	1. 急変時に必要な援助技術 1) 気管内挿管介助 2) 救急カート	演習
	10	2	1. 緊急時の対応	演習

1 1	2	1. 事例に応じた指導技術 1) 事例の構築 (病態生理と看護の理解) ・ストーマ造設 (各種) ・糖尿病 (血糖測定、薬剤: 経口薬、インスリン注射、食事・運動療法) ・透析 (透析、食事・運動療法)	演習
1 2	2	2) 指導に関する内容の構築 (指導に必要な視点と内容の抽出および指導計画書作成)	演習
1 3	2	3) 指導書の作成 (症状悪化予防と生活再構築のための指導法)	演習
1 4	2	4) 発表と意見交換 (ロールプレイング)	演習
1 5	2	5) 発表と意見交換 (ロールプレイング)	演習
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書を読み、必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・事前課題は期日までに提出する。 ・グループ編成及び内容については別途指示する。 	
テキスト		<p>野崎真奈美著: 成人看護学 成人看護学技術, 南江堂 山勢博彰著: 系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院 佐々木勝教監修: ゼロからわかる 救急・急変看護, 成美堂出版 川村雅文著: 系統看護学講座 成人看護学②呼吸器, 医学書院 吉田俊子著: 系統看護学講座 成人看護学③循環器, 医学書院 松田明子著: 系統看護学講座 成人看護学⑤消化器, 医学書院 吉岡成人著: 系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝, 医学書院 竹村信彦著: 系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経, 医学書院 今井亜矢子著: 系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器, 医学書院 日本糖尿病学会 編: 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版, 文光堂</p>	
参考文献		必要に応じて授業中に提示する。	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		<p>○下記の技術に関しては、演習時に評価表を使用して自己と他学生にて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄援助技術: 12.ストーマ管理 ・呼吸・循環を整える技術: 31.ネブライザーを用いた気道内加湿、32.口腔内・鼻腔内吸引、33.気管内吸引、34.体位ドレナージ ・創傷管理技術: 36.創傷処置(創洗浄,創保護,包帯法)、37.ドレーン類の挿入部の処置 ・救命救急処置技術: 47.緊急時の応援要請、48.一時救命処置(BLS)、49.止血法の実際 ・感染予防技術: 61.無菌操作、 ・安全管理技術: 68.医療機器(輸液ポンプ,シリンジポンプ,心電図モニター,酸素ボンベ,人工呼吸器)の操作・管理 <p>○症状・生体管理技術: 54.簡易の血糖測定については、演習時に評価表を使用して自己と教員にて評価する。</p> <p>○食事の援助技術 4.食事指導については演習中に評価表を用いて、自己と学生、教員で評価を行う。</p>	
成績評価の方法と基準		<p>①課題、演習: 70点 ②筆記試験 30点 (45分) ①に関しては別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。</p>	

授業科目	老年看護学援助論 1	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>高齢者の生活を支えるために必要な知識、技術、態度を習得し看護援助が実施できるように教授する。</p> <p>認知症高齢者の安心できる生活、意思を支えるために、認知症の特徴的な症状や言動から思いを引き出し必要な看護について教授する。特に人として尊重した態度や権利擁護といった倫理的課題に対し授業を通して考えを深め行動できるように進める。又レクリエーションを実際に企画、実践して介護・看護が必要な高齢者の適切なレクリエーションを理解できるよう担当教員の実務経験を交えて教授する。</p>			
到達目標	<p>1. 高齢者の日常生活を支える看護援助が実施できる。</p> <p>2. 高齢者の特徴的な症状を理解し必要な看護援助が理解できる。</p> <p>3. 認知症高齢者の生活を支える看護を理解する。</p>			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション	講義
2	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・活動と休息を整える看護 転倒予防、廃用症候群予防 生活リズムを整える看護	講義
3	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・食生活を支える看護 ・排泄を支える看護	講義
4	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・排泄を支える看護	講義
5	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・排泄を支える看護 【床上、ポータブル、オムツ交換、陰部洗浄】	演習
6	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・清潔を整える看護	講義
7	2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・清潔を整える看護 【点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、整容】	演習
8	2	2	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護 1 発熱 2 痛み 3 倦怠感	講義
9	2	2	症候のアセスメントと看護 4 脱水 5 嘔吐 6 浮腫	講義
10	2	2	症候のアセスメントと看護 7 掻痒 (かゆみ) 8 褥瘡・スキンテア	講義
11	3	3	褥瘡予防、褥瘡ケア 【体圧測定 エアーマット体験 褥瘡処置(洗浄、ドレッシング剤)】	演習
12	2	2	認知機能障害のある高齢者の看護 うつ せん妄 認知症	講義
13	2	2	認知症の看護 レクリエーション企画	講義

14	3	レクリエーションの発表	講堂で演習
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習 演習課題の実施		
テキスト	北川公子 他:系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院 鳥羽研二 他:系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院 任 和子 他:基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院		
参考文献	亀井智子 編集:根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	排泄援助技術の 7 排泄援助 (床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、清潔・衣生活援助技術の 23 陰部の保清、26 口腔ケア、27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、創傷管理技術の 35 褥瘡予防ケア、感染予防技術の 57 スタンダード・プリコーション (標準予防策) に基づく手洗い、58 必要な防護用具 (手袋、ゴーグル、ガウン等) の選択、着脱について演習時に評価表を用いて自己評価・他者 (学生) 評価を行う。		
成績評価の方法と基準	筆記試験 90 点 レクリエーション 10 点 合計 100 点満点で評価する。 60 点未満は不合格となる。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。		

授業科目	老年看護学援助論 2	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	健康障害をもつ高齢者は、複数の疾患を有していることや言語障害、認知機能の低下などの特徴がある。これらの特徴をふまえ、授業では担当教員の実務経験を交え、対象に必要な看護が実践できるように症状観察、アセスメントを実施しながら臨床判断能力を習得できるように教授する。又、高齢者への倫理的配慮を大切にしながら看護を実践できるように教授する			
到達目標	1. 老年症候群、老年期に多い疾患の看護を理解する。 2. 老年期の特徴を踏まえた看護が実践できる。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2	老年症候群 高齢者のフィジカルアセスメント 入院治療を受ける高齢者の看護		講義
2	2	検査を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護		講義
3	2	高齢者の疾患の特徴 誤嚥性肺炎の看護		講義
4	2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 【自動・他動運動の援助】 嚥下障害のある高齢者の看護 【摂食嚥下障害のある高齢者の食事援助、口腔ケア】		演習
5	2	骨粗鬆症、大腿骨近位部骨折看護 人工関節置換術を受けた高齢者の看護		講義
6	2	パーキンソン病の看護		講義
7	2	白内障の看護 前立腺肥大、前立腺がんの看護		講義
8	1	まとめ		講義
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習 演習課題の実施			
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論，医学書院 井手隆文 他：系統看護学講座 成人看護学 7 脳神経，医学書院 河邊博史：系統看護学講座 成人看護学 8 腎・泌尿器，医学書院 田中栄 他：系統看護学講座 成人看護学 10 運動器，医学書院 大鹿哲郎 他：系統看護学講座 成人看護学 13 眼，医学書院			
参考文献	必要に応じて指示する			

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	活動・休息援助技術の 17 自動・他動運動の援助、清潔・衣生活援助技術の 26 口腔ケアについて、演習時に評価表を用いて自己評価・他者（学生）評価を行う。
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点満点で評価する。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。

授業科目	子どもの成長発達の支援と看護	担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>社会の中で小児と家族のおかれている状況やその問題点、成長発達については1年次に学習した。この科目では、まず小児各期の養育を学ぶ。そのうえで成長発達途上の子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について成長発達、健康の段階、検査・治療などからみた看護について教授する。さらに、子どもが病気や障がいをもどのように捉え生活しているのか、その家族は子どもをどのように支えているのか、家族の思いなどを考えられるようにする。また看護師として小児と家族中心の看護とは何か考えられるよう担当教員の実務経験も交え、理解を深めることができるよう教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期(乳幼児・幼児期・学童期・思春期)の生活への援助と保育の在り方を理解できる。 2. 健康障害を子どもと家族がどのようにとらえているのか理解できる。 3. 入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる。 4. 子どもと家族の経過別(急性期・周手術期・慢性期・終末期)看護が理解できる。 5. 子どもの検査・処置体験、治療に伴う苦痛を理解し、検査・処置・治療が円滑に行える看護を理解できる。 6. 先天異常・障がいをもつ子どもと家族の看護が理解できる。 7. 子どもの成長発達に合わせた日常生活援助(栄養・清潔・排泄)が理解できる。 8. おもちゃ作成を行い子どもにとっての遊びの意義及び成長発達をふまえた遊びを理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	乳児・幼児の成長発達、乳児・幼児の養育および看護	講義
	2	2	学童・思春期の成長発達、学童・思春期の養育および看護	講義
	3	2	子どもの認知度・病気の理解度、病気の子どものもつ家族の問題点 入院が子どもと家族に与える影響	講義・演習
	4	2	小児の入院形態・入院環境	講義
	5	2	入院している子どもと家族への看護	講義
	6	2	外来看護の特徴・外来の機能と求められる看護 在宅における子どもの看護・災害時の子どもの看護	講義・演習
	7	2	急性期・周手術期・慢性期にある子どもと家族の看護	講義
	8	2	終末期にある子どもと家族の看護 検査を受ける子どもと家族の看護 制限のある子どもと家族の看護	講義・演習
	9	2	先天的な問題をもつ子どもと家族の看護	講義
	10	2	障がいのある子どもと家族の看護	講義
	11	2	低出生体重児の看護	講義

1 2	2	成長発達に合わせた子どもの遊びとプレパレーション	講義
1 3	2	成長発達に合わせた子どもの遊びとプレパレーション (発表)	演習
1 4	2	コミュニケーション技術と日常生活援助	講義・演習
1 5	2	コミュニケーション技術と日常生活援助	演習
授業時間外の 学習	講義の中で課題を提示するので、課題に対するレポート作成し提出する。 子どもの遊びとプレパレーションはグループで検討する。		
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規		
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし		
成績評価の 方法と基準	定期試験と課題レポート、グループワークのレポートで評価する。 定期試験 80 点、グループワークのレポート 20 点 計 100 点で評価する。		

授業科目	健康障害のある子どもの看護	担当 教 員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習の学習では、子どもが病気や障がいをどのように受け止めているのか、子ども中心の看護とは何か考えてきた。子どもには小児特有の疾患が多くある。この科目では症状別看護を学び、小児特有の疾患の病態生理、検査・治療や成長発達をふまえた子どもと家族の看護を中心に講義を進める。また、看護実践の場面での対応について担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども及び家族への症状別看護が理解できる。 2. 主要な疾患をもつ患児の看護が理解できる。 3. 治療を受ける子どもの看護が理解できる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	症状を示す子どもと家族の看護 (一般状態、呼吸循環の症状、発熱、消化器症状、水分・電解質異常)	講義	
2	2	症状を示す子どもと家族の看護 (血液、神経・筋症状、黄疸) てんかん・熱性けいれん	講義	
3	2	症状を示す子どもと家族の看護(発疹) 痛みのある子どもと家族の看護	講義	
4	2	子どもの身体的アセスメント(バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント)	講義・演習	
5	2	代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患のある子どもと家族の看護	講義	
6	2	呼吸器疾患・循環器疾患のある子どもと家族の看護	講義	
7	2	消化器疾患のある子どもと家族の看護	講義	
8	2	血液・造血器疾患・悪性新生物のある子どもと家族の看護	講義	
9	2	腎・泌尿器疾患のある子どもと家族の看護	講義	
10	2	神経疾患・発達障害のある子どもと家族の看護	講義	
11	2	運動器疾患・皮膚疾患・耳鼻咽喉疾患のある子どもと家族の看護	講義	
12	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助/検査・処置を受ける子どもの看護	講義・演習	
13	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助/検査・処置を受ける子どもの看護	演習	
14	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助/検査・処置を受ける子どもの看護	演習	
15	2	看護過程の展開における留意点	講義・演習	

授業時間外の学習	課題を提示するので提示された期日までに提出する。
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終了試験 70 点、課題レポート 10 点、グループワークのレポート 20 点の計 100 点で評価する。

授業科目	母性看護学援助論 1	担当 教員	氏名	右田 文
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	無
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	保健所にて助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	妊娠は、女性のライフサイクルの中でも大きなイベントである。妊娠は、看護を考える上で他の教科と異なり、いわゆる「病気」ではないため、多くの人には、妊娠や分娩は正常に経過して当然だという考え方があります。しかし、実際には、妊娠・分娩には多くのリスクを伴う。この科目では、まず、妊娠から分娩後（産褥期）まで、と生まれてきた新生児の「正常な」経過を知ってもらい、その中で私たちはどのような支援を行えばよいのかを考える。授業にあたっては、担当者の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥期の母体の生理的变化を理解する 2. 胎児の変化と新生児の生理と正常な経過を理解する 3. 妊・産・褥婦の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる 4. 正常な経過をたどる妊・産・褥婦・新生児への看護が理解できる 			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	2	妊娠の診断 妊婦の健康診査 妊娠初期・中期・後期の母体の変化と胎児の成長 妊娠期の看護	講義	
2	2			
3	2			
4	2	胎児心拍数モニタリング	講義	
5	2	分娩の生理 分娩期の母体変化 分娩の進行判断	講義	
6	2			
7	2			
8	2	分娩期の看護（分娩開始前から分娩第 1 期まで）	講義	
9	2	分娩期の看護（分娩第 2 期から第 4 期、分娩の振り返りまで）	講義	
1 0	2	産褥の生理：退行性変化	講義	
1 1	2	産褥の生理：進行性変化	講義	
1 2	2	産褥の生理：心理的变化、母子相互作用・ボンディング・アタッチメント	講義	
1 3	2	新生児の生理	講義	
1 4	2	新生児期の経過と看護	講義	
1 5	2	産後健診	講義	

授業時間外の学習	講義終了後、テキストを見返して課題を整理する 課題は複数回提示する
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②，医学書院
参考文献	宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他：病気が見える Vol.10 産科，メディックメディア など
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、妊娠・分娩・産褥・新生児の整理についての課題 20 点、計 100 点で評価する。

授業科目	母性看護学援助論 2	担当 教員	氏名	右田 文
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	無
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	保健所にて助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>この科目では、母性看護学援助論 1 で学んだ知識を基に、その知識を実際に臨床の場で活用していくための指導技術や看護過程、基本的な援助技術を学ぶ。また、妊娠期から産褥期にかけては異常も起こりやすい時期であり、異常な場合の看護についても教授する。</p> <p>新生児は、母親の胎内で生活していたものが、呼吸その他自分で行わなければならない、ダイナミックに変化する時期でもあるため、そのような新生児を看護していくための視点と、愛護的に扱う技術も学んでいく。授業にあたっては、担当者の実務経験を交え教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ妊・産・褥婦への看護が理解できる 2. 健康障害をもつ新生児への看護が理解できる 3. 母性看護に必要な基本的看護技術が理解できる 4. 新生児に安全・安楽な沐浴を実施できる 5. 母性看護に必要な基礎的指導技術を理解できる 6. 褥婦及び新生児の看護過程について理解できる 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	ハイリスク妊娠	講義	
2	2	異常経過にある産婦の看護	講義	
3	2	誘導分娩と産科手術	講義	
4	2	異常経過にある褥婦の看護	講義	
5	2	異常経過にある新生児の看護	講義	
6	2	母性看護技術	講義・演習	
7	2	母体：レオポルド触診法・分娩監視装置の装着方法・乳頭マッサージ・産後の子宮復古確認 など		
8	2	新生児：諸計測・バイタルサイン測定・抱っこ・おむつ交換・哺乳・排気・沐浴 など		
9	2	沐浴	講義・演習	
10	2	母性看護における指導技術	講義・GW	
11	2	(グループに分かれ、パンフレットを作成する)		
12	2	母性看護における指導技術 (グループで討議したものを発表し、学びを共有する)	演習	
13	2	看護過程の展開 ウェルネス型看護診断	講義	
14	2	看護過程の展開	講義	

15	2	沐浴技術演習	演習
授業時間外の学習	1. 課題に取り組み、期日までに提出する 2. GWでの検討が十分にできなかった場合に、講義時間外での取り組みとする 3. 看護技術の演習や、沐浴技術試験に関して、講義時間外に各自で練習を行う		
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②，医学書院		
参考文献	太田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版，医歯薬出版 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他：病気が見える Vol.10 産科，メディックメディア 日本助産診断・実践研究会：実践マタニティ診断，医学書院 など		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	清潔・衣生活援助技術の 28. 新生児の沐浴・清拭は、評価表を用いて技術試験を行う。		
成績評価の方法と基準	【評価①】 終了試験(45分)80点、指導技術(別紙評価表を使用)20点の計100点で評価する。 60点未満は再試験とする。 【評価②】 沐浴技術試験を(100点)を実施し、60点未満は再試験とする。 科目の最終評価は、評価①筆記試験・指導技術を70%、評価②技術試験を30%として算出する。		

授業科目	精神看護学援助論 1	担当 教員	氏名	紙賀千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	精神看護においてケアを行う際の前提や原則、中核となる看護理論について理解し、患者が抱える問題や生きにくさを捉え介入するプロセスや具体的な関り方など、精神障害を持つ人へのケアの基本的な方法を講義・演習にて習得させる。 さらに、看護師のストレスを理解し、看護師自身の感情の取扱い方など自分の心の健康を保持増進するための方法を考える機会とする。看護師経験および実習指導により得た知識・経験をもとに、実践に活かせる知識・技術の教授を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護においてケアを行う際の前提・原則、および看護理論について理解できる。 2. 症状アセスメントやプロセスレコードの実際の活用方法を、演習を通して理解できる。 3. 精神の健康障害をもつ対象に対する看護の展開を行う際の基盤（視点や考え方、プロセスなど）について理解できる。 4. 認知行動療法の具体的方法を理解し、活用方法や有効性を理解できる。 5. 看護師のメンタルヘルス支援について理解できる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	第 8 章 ケアの人間関係 ・精神看護に活用される看護理論 ・ケアの前提、原則、方法 ・患者-看護師関係における感情体験 ・チームのダイナミクス	講義・演習	
2	2			
3	2			
4	2	症状・関係をアセスメントする（シミュレーション学習） ・症状アセスメントの基礎、アセスメントトレーニング ・プロセスレコードの基礎、プロセスレコード演習 ・コミュニケーショントレーニング	講義・演習	
5	2			
6	2			
7	2			
8	2	精神看護における看護過程の展開の基礎	講義・演習	
9	2			
10	2			
11	2	認知行動療法の概要と有効性 ・認知療法：認知再構成法 ・行動療法：問題解決法	講義・演習	
12	2			
13	2			

14	2	第16章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス ・看護師の不安と防衛 ・感情労働としての看護 ・看護師の感情ワーク	講義
15	2	・看護師のストレッサーとなりうるもの ・メンタルヘルスを保つ方法	
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨む。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 	
テキスト		武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開，医学書院	
参考文献		野末 聖香：リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 宇佐美 かおり：精神科看護の理論と実践，ヌーヴェルヒロカワ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		筆記試験（45分）80点、課題20点、計100点で評価する。 *授業態度・グループ学習への参加態度が著しく悪い者、課題提出遅れがあれば減点する。	

授業科目	精神看護学援助論 2		担当 教員	氏名	① 小野 香 ② 安武竜太
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	① 南ヶ丘病院 ② 小倉蒲生病院
対象学生	2023 年度・2 年生				担当者実務経験
受講要件	なし				
授業概要	<p>精神科治療の目標は「治癒」から「回復」へと移ってきている。精神看護に携わる者として「回復（リカバリー）」の意味を理解し、精神障害をもつ人々の回復を促し支援するさまざまなアプローチの方法、地域で生活する人へのケアと支援について理解できるよう講義を進める。また、入院治療をうける人にとっての入院の意味や影響を理解したうえで、回復を促進するための治療的環境の在り方や安全を守る視点、必要な看護について経験をもとに事例をふまえて講義する。</p> <p>精神看護は精神科病院に入院している患者にのみ対応するものではない。身体疾患をもつ患者・家族の精神的問題に対して、精神看護の技術を活用することで心のケアを行うリエゾン精神看護の知識・技術について教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者および看護師にとっての「回復（リカバリー）」の意味・プロセスを理解する。 2. 精神に障害をもつ人の地域生活を支えるための支援について理解する。 3. 精神に障害をもつ人にとっての入院の意味を理解し、回復に必要な看護を理解する。 4. リエゾン精神看護の概要と諸問題のアセスメントや介入方法について理解する。 				
授業計画	回	時間	内容	方法	
1	2	2	回復を支援する：回復の意味、リカバリーを促す環境と方法	講義	
2	2	2	回復を支援する：回復のためのプログラム リカバリーのプロセス	講義	
3	2	2	地域におけるケアと支援：器としての地域 地域における生活支援の方法	講義	
4	2	2	地域におけるケアと支援：地域における生活支援の方法	講義	
5	2	2	医療の場におけるメンタルヘルスと看護 ・身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス ・リエゾン精神看護とその活動：直接ケアと間接ケア	講義	
6	2	2	・リエゾナーズの活動の実際 ①不安の強い患者 ②怒りの強い患者 ③痛みの強い患者	講義	
7	2	2	災害時のメンタルヘルスと看護	講義	
8	2	2	入院治療の意味：精神科の受診	講義	
9	2	2	入院治療の意味：治療の器としての病院・病棟	講義	
10	2	2	入院治療の意味：入院中の観察とアセスメント、ケアの方向性	講義	
11	2	2	入院治療の意味：退院に向けての支援と実際	講義	
12	2	2	身体をケアする：精神科における身体のケア 精神科における身体を通した看護ケア	講義	

13	2	身体をケアする：精神科の治療に伴う身体のケア	講義
14	2	身体をケアする：身体合併症のアセスメントとケア 精神科における終末期ケア	講義
15	2	安全をまもる：リスクマネジメントの考え方と方法 緊急事態への対処 緊急事態とスタッフの支援	講義
授業時間外の 学習		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨む。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 	
テキスト		武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開，医学書院	
参考文献		野末 聖香：リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 宇佐美 かおり：精神科看護の理論と実践，ヌーヴェルヒロカワ	
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		担当講師ごとに筆記試験（100点）で評価する。 科目の最終評価は、①を50%、②を50%で算出する。	

授業科目	薬物療法と看護	担当 教員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1単位・20時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	医療において薬物療法が果たす役割は大きく、その薬物療法を安全かつ効果的に用いるために看護が果たす責任や役割は大きい。薬物療法については、専門基礎分野や各看護学で学んでおり、本講義では、それらの知識を活用し、対象に応じた薬物動態や投与方法の違い、特徴を理解できるように講義・演習を行う。さらに、発達段階や疾患、病期などの特徴や場に応じて患者が安全に薬物療法を受けるために必要な看護について学ぶ。講義にあたっては、各領域の担当者が協力し、実務経験を活かして講義を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな対象者への薬物療法の特徴を理解できる。 2. 対象に応じた薬物の投与方法および薬物療法に伴う看護について理解できる。 3. 輸血管理の基礎知識を踏まえ、援助の実際を理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	2	対象に応じた薬物療法と看護 ・薬物療法における看護師の役割 ・患者と薬物療法 ・薬物治療の評価 ・安全管理 ・チーム医療と薬物療法	講義	
2	2	薬物動態・認知能力・管理能力に応じた服薬管理	講義	
3	2			
4	2	ハイリスク薬品の特徴と看護	講義	
5	2	場に応じた看護・対象に応じた看護の実際	講義・演習	
6	2			
7	2			
8	2	対象に合わせた服薬の指導（成人・老年・小児・精神・在宅）	演習	
9	2			
10	2	ハイリスク薬品曝露予防策の実施 輸血の管理と実際	講義・演習	
授業時間外の学習	服薬指導のロールプレイについてシナリオ作成、準備			

テキスト	①井上 智子他：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学、医学書院 ②北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院 ③佐々木勝教：救急・急変看護、成美堂出版 ④河原加代子他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院 ⑤奈良間美保他：系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院 ⑥森 恵美他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論、医学書院 ⑦武井麻子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開、医学書院 ⑧任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅱ、医学書院 ⑨茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅰ、医学書院
参考文献	野元正弘他：薬がみえる 1、メディックメディア 弘世貴久他：薬が見える 2、メディックメディア
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	与薬の技術の 46.輸血の管理、安全管理の技術 67.人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施については、チェックリストを用いて自己評価・他者(学生)評価を実施する。
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、演習の評価（評価基準あり）20 点の計 100 点で評価する。

授業科目	家族看護	担当 教 員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1単位・20時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>家族成員のだれかに健康問題が生じると家族は様々な影響を受け、家族の生活は変化する。本科目では、家族の位置づけと家族の基本的な考え方を想起し、家族成員の主体性を尊重しながら看護に必要な家族アセスメントと援助を展開するための知識や方法について教授する。さらに、現代の家族の特徴、理論を活用した家族の捉え方、家族の病気体験を理解する姿勢や家族へのアプローチ等について看護の展開を行う。講義にあたっては、各領域の担当者が協力し、実務経験を活かして講義を行う。</p>			
到達目標	<p>1. 家族を看護の対象として位置づけ看護の必要性を理解する。 2. 健康問題を有する家族員をかかえた家族の特徴や家族システム、家族の発達、家族のセルフケアの視点を理解する。 3. 事例を通して家族をアセスメントし、必要な看護の方法を考えることが出来る。</p>			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	2	<p>家族を看護するということ 家族を理解するための理論： 家族システム理論、家族ストレス対処理論、家族発達理論</p>		講義
2	2	<p>家族の病気体験を理解する 家族の病気のとらえ方・理解、家族の苦悩、情緒的反応 家族の生活への影響、家族のニーズ</p>		講義
3	2	<p>家族と援助関係を形成する 援助関係とは 看護者に求められる基本姿勢 家族とのコミュニケーションにおける留意点</p>		講義、演習
4	2	<p>家族への看護アプローチ 家族のセルフケアの支援、家族の役割調整</p>		講義、演習
5	2	<p>事例に基づく家族看護の実践① ・急性期患者の家族看護 ・慢性期患者の家族看護 ・高齢者の家族看護</p>		講義 グループワーク
6	2	事例検討		グループワーク
7	2	発表会①		演習
8	2	<p>事例に基づく家族看護の実践② ・健康障害をもつ小児の家族看護 ・周産期に関する家族看護 ・精神疾患患者の家族看護 ・在宅で療養する対象の家族の看護</p>		講義、演習
9	2	事例検討		講義、演習
10	2	発表会②		演習
授業時間外の 学習	<p>復習はテキストや授業資料等を用いて学習内容を整理して理解を深めておく。</p>			

テキスト	上別府圭子 他：系統看護学講座 別巻 家族看護学，医学書院 地域・在宅看護論の授業資料を使用することがある。
参考文献	必要時提示する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験 40 点(45 分)、看護の展開 60 点の合計 100 点で評価する。60 点以上を合格とする。受講態度も評価の参考とする。

授業科目	周手術期看護	担当 教 員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	手術による身体的、精神的、社会的影響は大きい。看護師は、手術方法による侵襲の程度や侵襲に対する耐性、侵襲からの回復力をとらえ総合的にアセスメントし、その人の耐性をいかに高く維持するか、その人の回復力をいかに引き出せるかを考える必要がある。この科目では、患者自ら主体的に治療に参加し、手術によって受ける侵襲や影響を最小限にとどめ、健康回復や社会復帰できるように働きかける為に必要な知識、技術の習得をめざす。周手術期にある対象を理解し、術前、術中、術後の各段階の特徴と看護、発達段階と状態に応じた看護、各手術における看護を担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期看護の概要が理解できる。 2. 術前の看護が理解できる。 3. 術中の看護が理解できる。 4. 術直後、術後の看護が理解できる。 5. 術後患者に必要な技術が習得できる。 6. 術後合併症とその看護が理解できる。 7. 手術部位別の周手術期患者の看護が理解できる。 8. 発達段階や対象の状態に応じた周手術期看護が理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	4	4	周手術期の概要 周手術期の定義と合法性 手術を受ける患者・家族の理解 患者を支える医療チーム 看護業務における法律と制度	講義
2				
3	2	2	発達段階や対象の状態に応じた術後合併症と予防	講義
4	2	2	発達段階や対象の状態に応じた術前の看護	講義
5	2	2	発達段階や対象の状態に応じた術中の看護	講義
6	2	2	発達段階や対象の状態に応じた術後の看護	講義
7	2	2	手術環境を整える感染予防 安全な環境管理 手術時手洗い ガウンテクニック	講義・演習
8	2	2	術後患者に必要な技術 弾性ストッキング AVインパルス 術後ベッド作成	演習
9	2	2	術後患者に必要な技術 ドレーン管理の実際 創傷処置	演習
10	2	2	開頭術を受ける患者の看護 脳腫瘍	講義
11	2	2	開胸術を受ける患者の看護 肺がん(肺葉切除術) 心臓弁膜症(弁置換術)	講義

1 2	2	開腹術を受ける患者の看護 胃がん(胃切除術・胃全摘術)、大腸がん(人工肛門増設術)	講義
1 3	2	高齢者や子どもに特徴的な外科的治療 白内障(白内障手術)、前立腺肥大症(経尿道的前立腺切除術) 慢性扁桃炎(口蓋扁桃摘出術)	講義
1 4	2	女性特有の外科的治療 帝王切開を受ける患者の看護、乳がん(乳房全切除術)	講義
1 5	2	腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 胆石(胆嚢摘出術)	講義
授業時間外の 学習		① 事前学習として指定の用紙を配布する。 ・インフォームド・コンセントを受けた患者への看護師の役割 ・術中体位 ・安全な環境管理、手術時手洗い、ガウンテクニック ・弾性ストッキング、AVインパルス、術後ベッド、ドレーン管理の実際、 創傷処置 ② 演習後の終了レポート	
テキスト		矢永勝彦 他 : 系統看護学講座 別巻1 臨床看護学総論, 医学書院 北島政樹 他 : 系統看護学講座 別巻2 臨床看護各論, 医学書院 野崎真奈美 他 : 成人看護技術, 南江堂	
参考文献		中村美和子 監修: 周手術期看護 安全安楽な看護の実際 改訂版, インターメディカ	
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法		創傷管理技術の 36.創傷処置(創洗浄,創保護,包帯法)、37.ドレーン類の挿入部の処置、に関してチェックリストを用いて自己評価・他者評(学生)価にて手順を評価する。	
成績評価の 方法と基準		筆記試験 100 点満点で評価する。 60 点以上を合格とする。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	終末期看護	担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	生まれてきた人にはいつか死は訪れるが、人々は日々の暮らしの中で、死はほとんど意識することなく過ごしている。あらゆる発達段階、看護の場にある人が、「自らの死」に対峙して生きる姿や、死にゆく過程における患者と家族の苦痛・苦悩、終末期における心身の変化を緩和するケアについて学ぶ。さらに遺族へのグリーフケア、人生最後の時を迎える人の看取りのケアについても学ぶ。この科目では、終末期にある人を理解し、その人の状態に応じた看護を担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある人を理解するための基礎となる考え方や理論が理解できる。 2. 終末期にある人がその人らしく生きることを支える看護について考えることができる。 3. 終末期における症状緩和のためのケアと死後の処置について理解できる。 4. 家族ケアとグリーフケアについて理解できる。 5. 終末期医療における倫理的課題について考えることができる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	終末期看護概論① 終末期とは 1) 全人的苦痛と QOL 2) 緩和ケアとは何か 3) 緩和ケアの歴史と海外における緩和ケアの現状 4) 緩和ケアにおける看護師の役割	講義	
2	2	終末期看護概論② 1) キューブラー・ロスの「死にゆく過程 5 段階」 2) 映画を鑑賞して死にゆく人とその家族について考える	講義 DVD 鑑賞	
3	2	終末期における身体的苦痛と看護	講義	
4	2	終末期における精神的苦痛・社会的苦痛と看護 (緩和ケアのコミュニケーション)	講義	
5	2	終末期におけるスピリチュアルペインと看護、代替補完療法	講義	
6	2	終末期における苦痛緩和のための看護 (薬物療法、放射線療法)	講義	
7	2	終末期にある家族ケア、遺族ケア (グリーフケア)	講義	
8	2	臨死期の看護と死後の処置 緩和ケアにおける倫理的課題	講義	
9	2	終末期にある小児の看護	講義	
10	2	終末期にある小児の看護 こどもの死の概念、死が近づいた子どもの反応	講義	
11	2	非がん患者の緩和ケアの一般的特徴 神経疾患の緩和ケアの特徴、慢性心不全の緩和ケア、腎不全、 COPD の緩和ケア、認知症	講義	

1 2	2	事例から緩和ケアを考える①	講義 (GW)
1 3	2	事例から緩和ケアを考える②	演習 (GW)
1 4	2	事例から緩和ケアを考える③	演習 (GW)
1 5	2	事例から緩和ケアを考える④ (発表会)	演習 (GW)
授業時間外の 学習	「事例から緩和ケアを考える」の準備		
テキスト	宮下高令 編集：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 香春知永 他：系統看護学講座 臨床看護総論，医学概論		
参考文献	青木学 他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院		
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし		
成績評価の 方法と基準	①筆記試験 100点 (45分) 80% ②演習 20%で評価する。 授業態度、課題提出の遅れ等は減点することがある。		

授業科目	看護過程演習	担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護過程の活用は、看護の対象を多角的に捉え、看護を計画的に実施するための力を育む。基礎看護学で看護過程の基本的知識を学んでいるが、対象の状況に応じた看護過程の展開を実施できるようになるためには、様々な対象の状況を想定した看護過程の展開を実践し、その方法を体得していく必要がある。この単元では、患者の健康問題を解決し、対象の状況に合わせた看護を行うための思考と行動の道筋である看護過程の活用方法を学ぶ。様々な状況を想定し、事例演習を通して、より実践的な看護過程のプロセスについて、臨床経験のある各専門領域の教員が協力して教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者にとって必要な看護を見きわめ、提供するプロセスである看護過程を活用できる。 2. 看護過程を用いて、対象者の常在条件・病理的条件（健康障害・治療や検査）、ニーズ、強みなどを関連・統合し、対象に応じた問題の抽出・優先順位の決定および対象にとって最善の目標設定・看護計画の立案ができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス（ジグソー学習による演習の進め方） 事例紹介（成人期・老年期の患者）、グルーピング、演習計画	講義・演習
	2	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開	演習
	3	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開	演習
	4	2	看護過程の中間報告会・教員助言	演習
	5	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開	演習
	6	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開	演習・講義
	7	2	成人期における患者の看護過程の発表、講評	演習・講義
	8	2	成人期、老年期における患者の看護過程の発表、講評	演習・講義
	9	2	事例紹介（周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者）、 グルーピング、演習計画	演習
	10	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開	演習
	11	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開	演習
	12	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開	演習
	13	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開	演習・講義
	14	2	周産期・小児期の看護過程の発表・講評	演習・講義

15	2	精神障害、在宅療養患者の看護過程の発表・講評	講義・演習
授業時間外の学習	授業時間で行えなかった課題の実施 発表会前には、各事例に対する学習を行い、グループで作成した資料を熟読し疑問点や意見を考えておくこと。		
テキスト	永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア V ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会		
参考文献	基礎看護学共通基本技術で配布された資料や看護過程記録、手引き 看護学の教科書全般、配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	評価表にて評価する。(成人期・老年期の事例のうちの1事例 および周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の事例のうち1事例の計2事例を各50点で評価し、合算する。		

授業科目	看護倫理	担当 教 員	氏名	下川原 尚子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習の学習で看護倫理について考えてきた。この科目では、倫理は看護実践の中にあり、看護師が持つ価値観をもとに看護を実践していること、日々の看護実践の中で起こりうる倫理的問題に直面したときに対象者の最善の利益とは何か考え行動することが大切であると気づけるよう授業を展開する。看護実践の中で遭遇する様々な問題や倫理的ジレンマの中で判断、行動している過程には根拠がある。事例を通してその考えに至る過程を学べるよう教授する。領域横断科目であり、各領域の具体的な事例をもとに倫理的問題について考え倫理は身近にあること、人間の生活に即していること、倫理とは何か考えるだけでなく看護実践の中にあるものであり倫理を大切に実践できるように担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理とは何か考えることができる。 2. 看護実践の場において倫理的意思決定のステップと検討方法が理解できる。 3. 倫理的問題を考え対象者の最善の利益を守るための行動を考えることができる。 4. 看護倫理を自己の看護実践と結び付けて考えることができる。 			
授業計画	回数	時間	内容	方法
	1	2	看護倫理とは	講義
	2	2	倫理的意思決定のステップと事例検討	講義・演習
	3	2	事例検討の方法	演習
	4	2	さまざまな看護活動と倫理 (終末期看護、地域・在宅看護、小児看護、母性看護、精神看護)	GW
	5	2	さまざまな看護活動と倫理 (終末期看護、地域・在宅看護、小児看護、母性看護、精神看護)	GW
	6	2	社会的要配慮者の看護と倫理(認知症、難病、虐待、障がい者)	GW
	7	2	社会的要配慮者の看護と倫理(認知症、難病、虐待、障がい者)	GW
	8	1	まとめ	講義・演習
授業時間外の学習	講義のテーマに沿った課題を授業中に提示するので、課題に対するレポートを作成し、提出する。			
テキスト	小西恵美子編集：NiCE 看護学テキスト 看護倫理，南江堂			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ、専門Ⅱの各教科書 医学書院など 必要時、講義の中で提示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	講義のテーマに沿った課題レポートで評価する。 評価は、評価表を用いて個人レポート 60 点、GW レポート 40 点の計 100 点で評価する。			

授業科目	基礎看護学実習 2	担当 教員	氏名	大木 克己								
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の基礎看護学の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。											
授業概要	基礎看護学実習 2 までに学習したことを踏まえ、受け持ち患者を通して人間である対象を理解させ、コミュニケーション技法を用いて、療養生活における未充足ニーズを考えさせる。また、療養生活を送る対象の生活援助を行い、看護技術の基本(原理・原則)を踏まえた日常生活援助を実施し、対象の個別性について考える事が出来るよう臨床での経験を活かし指導する。対象の健康・生活上の問題を把握し、看護過程を踏まえながら看護を実践する基礎的能力を身につける実習とする。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場である病院の役割や機能および患者の療養環境が理解できる。 2. 患者を支える看護師を中心とした医療従事者の役割・機能を理解できる。 3. 入院に伴う患者の気持ちを考え、患者を尊重した態度で接することができる。 4. 患者とより良い人間関係を成立させるために、患者および患者を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションを図ることができる。 5. 全人的な視点の持ち方を理解するとともに、患者の未充足のニーズを見出し、必要な援助を考えることができる。 6. 安全・安楽・自立を踏まえ、患者のニーズを充足させるための援助を指導者の指導のもとで実施できる。 7. 対象に必要な看護を展開する過程を理解し、実践できる。 											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間数</th> <th>内容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90 時間</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築 </td> <td>2 年次 5 月～6 月 12 日間</td> <td>北九州総合病院</td> </tr> </tbody> </table>				時間数	内容	実習時期	実習場所	90 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築 	2 年次 5 月～6 月 12 日間	北九州総合病院
時間数	内容	実習時期	実習場所									
90 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築 	2 年次 5 月～6 月 12 日間	北九州総合病院									
授業時間外の学習	<p>実習前に事前学習を行う。詳細は事前学習作成時に説明する。 事前学習は実習で活用できるように自分で工夫し、最低限、以下の内容を含めて準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の一連のプロセスの理解を深める学習(特に人間の反応の捉え方: 基本的ニーズを把握する視点や観察点、全体像の捉え方などは復習しておくこと) ・日常生活援助技術(基礎看護学で学んでいる全ての内容)について実施できるものに関する学習。 ・基礎看護学実習 1 B で行った別紙「清潔、活動、食事、排泄」の 4 項目の右側半分を記載する。 ・受け持ち患者もしくは担当病棟に多い疾患や治療、検査、処置と看護に関する学習。 <p>実習までに、各自実習で行うバイタルサイン測定や不得意な援助の練習をすること。実習中に解決できなかったこと出された課題は翌日までに調べ、説明できるようにすること。 実習中に学習したことは、事前学習に追加・修正する。また、事前学習にない内容は追加学習を行うこと。 事例検討会の際は担当教員の指導の下、テーマの理解が深められるように資料を作成して臨むこと。</p>											

<p>テキスト</p>	<p>有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 4 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院 永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア</p>
<p>参考文献</p>	<p>井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院 江口正信他：検査値早わかりガイド，医学芸術社 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論，医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論[1] 成人看護学総論，医学書院 黒田裕子：改訂版 黒田裕子の入門・看護診断，照林社 論理学で指定されたテキスト、文献、またはプリント</p>
<p>「看護師教育の技術項目」の到達確認方法</p>	<p>技術経験録による。</p>
<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>「基礎看護学実習 2」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。</p>

授業科目	地域・在宅看護論実習 1	担当教員	氏名	福田 敦子								
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。											
授業概要	地域で生活する対象の生活や健康を支えるために行われている多様な活動と支援の実際を知り、保健医療福祉における施設間及び多職種の連携と継続について学ぶ。また、それらの支援や活動を通して看護の役割について考えられるよう担当教員の実務経験を活かして指導を行う。											
到達目標	1. 地域で生活する人々の各ライフステージにおける健康や生活を守る各機関の支援について学ぶ。 2. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携と継続について学ぶ。											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45 時間</td> <td>1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能・役割 5. 生活を助ける福祉用具の実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性</td> <td>2 年次 10 月 7 日間</td> <td>小倉南区役所 地域のクリニック 社会福祉協議会 福祉用具プラザ北九州 特別養護老人ホームソレイユ浅野</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内容	実習時期	実習場所	45 時間	1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能・役割 5. 生活を助ける福祉用具の実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性	2 年次 10 月 7 日間	小倉南区役所 地域のクリニック 社会福祉協議会 福祉用具プラザ北九州 特別養護老人ホームソレイユ浅野
時間	内容	実習時期	実習場所									
45 時間	1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能・役割 5. 生活を助ける福祉用具の実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性	2 年次 10 月 7 日間	小倉南区役所 地域のクリニック 社会福祉協議会 福祉用具プラザ北九州 特別養護老人ホームソレイユ浅野									
授業時間外の学習	指定された課題を行って実習に臨む。(課題提出が実習開始の条件である。)											
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 1, 医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2, 医学書院											
参考文献	必用に応じて紹介する。											
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。											
成績評価の方法と基準	「地域・在宅看護論実習 1」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。											

授業科目	成人看護学実習 [セルフマネジメント実習]	担当 教員	氏名	東本 七重										
単位・時間数	1単位・45時間		所属	専任教員										
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務										
受講要件	1年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。													
授業概要	<p>健康はその人を取り巻く多様な環境・社会、日々の生活の積み重ねに影響を受け、促進あるいは破綻に至る。本実習では、健康を維持促進し、安全な生活を送れるための方法を考えさせる。健康の保持増進・疾病予防・疾病の早期発見のための健康管理活動を西日本産業衛生会の実習を通して理解させる。</p> <p>入院期間の短縮化、治療薬や身体侵襲が少ない手術の進歩によって、自己管理をしながら療養生活を送る患者が増加している。病院実習では、生活しながら医療を必要とする外来を訪れる対象のニーズ、外来看護の役割について病院外来の実習を通して理解させる。また、患者支援センターや病棟での実習を通して、地域から病院へ、病院から地域での生活を安全かつ安心して送るための医療や看護の継続的な支援、連携を学ばせる。さらに、それぞれの実習での学びをもとに、そのつながりを生活者の観点から考えられるよう看護師としての実務経験を生かして指導する。</p>													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要を知り、労働者への健康管理活動の実際を理解する。 2. 健康管理活動の場に訪れる対象の身体的・心理的・社会的・霊的特徴が理解できる。 3. 様々な職種が生活に影響を与える因子について考えることができる。 4. 健康管理活動の場における看護職の役割について理解できる。 5. 健康破綻が与える影響と健康再獲得に向けた医療職の役割を知ることができる。 6. 地域と病院をつなぎ健康管理活動を行う対象者を支える医療職の役割、活動について知ることができる。 													
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>時間</th> <th>実習内容</th> <th>時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A. 働く対象の健康を守る</td> <td>17</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携 </td> <td>2年次 1~2月 2日間</td> <td>西日本産業衛生会</td> </tr> </tbody> </table>				区分	時間	実習内容	時期	実習場所	A. 働く対象の健康を守る	17	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携 	2年次 1~2月 2日間	西日本産業衛生会
区分	時間	実習内容	時期	実習場所										
A. 働く対象の健康を守る	17	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携 	2年次 1~2月 2日間	西日本産業衛生会										

<p>実習の概要</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="367 217 542 887"> <p>B.健康破綻とセルフマネジメント</p> </td> <td data-bbox="542 217 635 887"> <p>28</p> </td> <td data-bbox="635 217 1045 887"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来の特徴 2. 受診目的と対応 3. 外来受診時の患者とその家族の心理 4. 外来看護師の役割 5. 検査・指導時の役割と援助 6. 入院時の心理状況の理解とその対応 7. 入院時の各職種の支援 8. 健康再獲得に向けた医療支援 9. セルフケア確立に向けた支援 10.退院時の患者、家族の心理 11.退院時の患者、家族の支援 12.患者支援センターの役割と支援 </td> <td data-bbox="1045 217 1173 887"> <p>2年次 10月 4日間</p> </td> <td data-bbox="1173 217 1420 887"> <p>北九州総合病院 外来 病棟 患者支援センター</p> </td> </tr> </table>	<p>B.健康破綻とセルフマネジメント</p>	<p>28</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来の特徴 2. 受診目的と対応 3. 外来受診時の患者とその家族の心理 4. 外来看護師の役割 5. 検査・指導時の役割と援助 6. 入院時の心理状況の理解とその対応 7. 入院時の各職種の支援 8. 健康再獲得に向けた医療支援 9. セルフケア確立に向けた支援 10.退院時の患者、家族の心理 11.退院時の患者、家族の支援 12.患者支援センターの役割と支援 	<p>2年次 10月 4日間</p>	<p>北九州総合病院 外来 病棟 患者支援センター</p>
<p>B.健康破綻とセルフマネジメント</p>	<p>28</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来の特徴 2. 受診目的と対応 3. 外来受診時の患者とその家族の心理 4. 外来看護師の役割 5. 検査・指導時の役割と援助 6. 入院時の心理状況の理解とその対応 7. 入院時の各職種の支援 8. 健康再獲得に向けた医療支援 9. セルフケア確立に向けた支援 10.退院時の患者、家族の心理 11.退院時の患者、家族の支援 12.患者支援センターの役割と支援 	<p>2年次 10月 4日間</p>	<p>北九州総合病院 外来 病棟 患者支援センター</p>		
<p>授業時間外の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に事前学習課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 ・実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。 					
<p>テキスト</p>	<p>小松浩子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論，医学書院 香春知永：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論，医学書院 国民衛生の動向（最新版），厚生労働省統計協会</p>					
<p>参考文献</p>	<p>数間恵子：The 外来看護 時代を超えて求められる患者支援，日本看護協会出版会 数間恵子：外来看護パーフェクトガイド 拡大する看護の役割と診療報酬上の評価，看護の科学社</p>					
<p>「看護師教育の技術項目」の到達確認方法</p>	<p>技術経験録による。</p>					
<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>「成人看護学実習」評価表を用いて評価する。60点以上を合格とする。</p>					

授業科目	老年看護学実習 1	担当教員	氏名	藤本 歩								
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。											
授業概要	老年看護学実習 1 では、施設の役割と機能を学習し、介護保険法のもと、施設で生活する高齢者とコミュニケーションを通して、日常生活援助を必要とする高齢者の介護や看護援助を理解できるように指導する。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的特徴が理解できる。 2. 老年期にある対象の生きがいや心身の健康保持のための活動が理解できる。 3. 老年期にある対象の生活の場や日常生活を知り、必要な看護援助が理解できる。 4. 保健医療福祉の各専門職との協働、及びチームにおける看護師の役割が理解できる。 											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内 容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45</td> <td>介護が必要な高齢者の理解とその看護</td> <td>2 年次 10 月 6 日間</td> <td>介護老人保健施設 あけぼの苑</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内 容	実習時期	実習場所	45	介護が必要な高齢者の理解とその看護	2 年次 10 月 6 日間	介護老人保健施設 あけぼの苑
時間	内 容	実習時期	実習場所									
45	介護が必要な高齢者の理解とその看護	2 年次 10 月 6 日間	介護老人保健施設 あけぼの苑									
授業時間外の学習	・指定された課題を行って実習に臨む。(課題提出が実習開始の条件である。)											
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院											
参考文献	亀井智子 編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術，医学書院											
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。											
成績評価の方法と基準	「老年看護学実習 1」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。											

授業科目	老年看護学実習 2	担当 教員	氏名	藤本 歩								
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。											
授業概要	老年看護学実習 2 では、健康障害にある高齢者の特徴をふまえ個別性に応じた看護過程を展開しながら、看護を実践できるよう指導する。実習を通して、高齢者の倫理的態度を養い、自己の老年看護観を深めていけるよう担当教員は看護師としての実務経験を活かして指導を進める。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ高齢者の全体像を理解できる。 2. 健康障害をもつ高齢者への看護を計画立案・実施・評価できる。 3. 高齢者やその家族とよい人間関係を結ぶことができる。 4. 医療チームの一員としての看護師の姿勢・態度が習得できる。 											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内 容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>健康障害のある高齢者の理解とその看護</td> <td>2 年次 11 月~12 月 3 週間</td> <td>北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内 容	実習時期	実習場所	90	健康障害のある高齢者の理解とその看護	2 年次 11 月~12 月 3 週間	北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院
時間	内 容	実習時期	実習場所									
90	健康障害のある高齢者の理解とその看護	2 年次 11 月~12 月 3 週間	北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院									
授業時間外の学習	・指定された課題を行って実習に臨む。(課題提出が実習開始の条件である。)											
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院											
参考文献	亀井智子 編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術，医学書院											
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。											
成績評価の方法と基準	「老年看護学実習 2」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。											